

抗 議 文

今年は地下鉄サリン事件から30年の節目の年である。多くのメディアがオウム真理教の一連の犯罪を振り返ると共に、今でも後遺症に苦しむ被害者や犠牲者遺族の変わらぬ苦しみを報道し、我々はオウム真理教の犯罪の非道さと、今なお続く問題の深刻さを改めて強く認識した。

しかし、オウム真理教の後継団体である「アレフ」、そしてここ烏山に拠点を置く「ひかりの輪」は、被害者や犠牲者遺族に対する本格的な賠償や謝罪から長年逃げ回るなど、30年を経ても自分たちが犯した行為に真摯に向き合っていない。

それどころか「ひかりの輪」の上祐は全国各地でセミナー・勉強会と称して勧誘活動を続けている。一方でメディア取材やSNSでは「アレフ」や公安調査庁を批判し、あたかも自分がオウム真理教の問題から距離を置く「ご意見番」であるかのような評論家的な発言をしている。

上祐は、無責任に他者を批判する前に、新たな宗教被害者を生む勧誘活動を直ちに止め、自らの賠償責任を果たし、その上で「ひかりの輪」を早期に解散・解体すべきである。

行政や地域住民からの支援や新たな参加者により、当協議会は「ひかりの輪」が解散・解体するまで粘り強く闘うことをここに宣言する。

令和7年11月8日

烏山地域オウム真理教対策住民協議会
会 長 古 馬 一 行